

働き方を変える 職場が変わる

本日、イクボス宣言!

※「イクボス」とは
職場で共に働く部下・スタッフ
のワーク・ライフ・バランス
(仕事と生活の両立)を考え、
その人のキャリアと人生を
応援しながら、組織の業績も結
果を出しつつ、自らも仕事と
私生活を楽しむことができる
上司(経営者・管理職)。

「働き方改革」をどう進めるかが課題になっているが、
企業トップや首長が続々と「イクボス宣言」を発し、
スとは何か。なぜイクボスの役割が重要なのか。多彩
ジャパンの安藤哲也代表理事と神津会長が語り合った。

6月は、連合の「男女平等月間」。それぞれの職場で
その「起爆剤」として注目を集めるのが「イクボス」だ。
「イクボス企業同盟」なるものも発足している。イクボ
な「イクボスプロジェクト」を展開するファザーリング・

育兒も、仕事も、人生も、
笑って楽しめる父親を増やしたい

富高 連合は結成当初から「男女
平等の実現」を運動の大きな柱と
位置づけ、毎年、男女雇用機会均
等法の公布月である6月を「男女
平等月間」として取り組みを進め
てきました。ファザーリング・ジャ
パンは設立10周年を迎えられまし
たが、立ち上げのきっかけとは？

安藤 私は、男女雇用機会均等法
成立後の1986年に大学を卒業
し、出版社に就職しました。当時
は日本経済も好調で、しゃかりき
に働きました。今でいう「ワーク・
ライフ・バランス」なんて考えたこ
ともなかった。

していたので、自然と父親である
私子どもと関わる時間が増えた。
仕事の面だけでなく、家庭生活と
いう面でも、得難い3年間でした。
安藤 海外で勤務された男性たち
は、みんな同じことをおっしゃい
ます。でも、日本に帰ってきたら
仕事人間に戻ってしまっ。

神津 そうなんですよね。ただ、
私の場合は、帰国後役員改選前の
1年半くらいは、わりと自由の利
く境遇だったんです。子どもたちは
日本の小学校に入りましたが、わ
ずか3年とはいえ「帰国子女」で
しょう。なじめる心配で保護者
会に出かけたんです。そうしたら
PTAの役員を決めるという。みん
ななかなか手を挙げなくて、結局
くじ引きになって見事役員の座を

ファザーリング・ジャパン代表理事

安藤哲也

1962年生まれ。二男一女の父親。出版社、書店、
IT企業など9回の転職を経て、2006年にファ
ザーリング・ジャパンを設立、2014年には「イク
ボスプロジェクト」をスタート。また社会的養護
の拡充と児童虐待・DVの根絶を目的とするNPO
法人タイガーマスク基金を設立し、代表理事を
務める。厚生労働省「イクメンプロジェクト推進
チーム」顧問。内閣府「男女共同参画推進連携会
議」委員、内閣府「ゼロから考える少子化対策プ
ロジェクトチーム」メンバーなどを歴任。
著書に『パパの極意～仕事も育児も楽しむ生き
方』(NHK出版)、『PaPa's絵本33』(小学館)、『で
きるリーダーはなぜメールが短いのか』(青春新
書)など多数。

ところが、35歳で父親になったん
です。夫婦共働きで、子育てを
助けしてくれる親は近くにいない。
妻は富山出身で、北陸は女性も
働き続けるのが当たり前だから、
仕事を続けてキャリアアップもし
たいという。そうになると、自分が
仕事だけじゃなく子育てや家事も
やるしかない。それで保育園に子
どもを預け、働きながら子育てす
る生活が始まったんですが、いやあ
「両立って難しいなあ」と実感しま
したね。特に男性が育児に参加す
ることに、ものすごく抵抗があつて
職場の理解が得られない。どうし
て日本の社会はこうなんだと悩み
ました。でも、逆にいえば、男性
が育児や介護や地域活動をするの
が当たり前前の社会になれば、女性

も活躍できるし、職場も地域も変
えることができると思っただんです。
それで10年前、「育児も、仕事も、
人生も、笑って楽しめる父親を増
やしたい」とファザーリング・ジャ
パンを立ち上げました。

富高 神津会長にもイクメン時代
はあったのでしょうか？

神津 私は、1990年から3
年間、連合アタッシェとして在
イ日本大使館に派遣されたんです。
妻とまだ幼かった2人の子ともも
同行しました。生活は一変しまし
たね。日本にいた時と比べて格段
に家族で過ごす時間が増えたん
です。まず、海外では夫婦で参加
するイベントが多いでしょう。そ
れに妻自身も、文化交流やボラン
ティアなどで駆り出されて忙しく

射止めてしまった。妻と分担しなが
ら、私もPTAの会合やら先生の進
路指導に向くことになったんです。
安藤 やってみると楽しいでしょ。
僕も子どもの小学校でPTA会長
をやったんですが、「なんでお父さ
んたちやらないの？ 教育の問題
にも気づくし、地域ともつながっ
て子どもたちの安全を守るために
もいいんだよ」と言い続けました。
1年目PTA本部役員で男性は僕
1人でしたが、2年目はPTA役
員の半分が男性になったんです。

神津 確かに参加してみると、教
育現場の問題が見えてくる。当時
すでに「学級崩壊」という言葉が出
始めていて、子どもたちのために
何ができるのか、考えさせられま
した。大人が動く子どもたちも

変わる。それが実感できる場面も
あって、父親も子どもに関わるこ
とが大事だと思えましたね。安藤さ
んのように最初から前向きだった
わけではないんですが、結果的に
貴重な経験をさせてもらいました。
安藤 その気づきを「パパスイッチ」
と呼んでいるんです。子どもが産ま
れてお風呂に入れた時、あるいはP
TAで活動してみた時、「家庭や地
域で父親の役割は重要なんだ」とい
うことに気づく。ファザーリング・
ジャパンでは、そのきっかけになる
ような事業をあれこれ仕掛けてい
るんです。男性が職場で働くこと
にしか価値を見い出せない社会を
変え、家庭や地域における男性の
役割を再認識していく。それが女
性の活躍にもつながっていくと。

連合会長

神津里季生

